

会 議 録

会議の名称		令和元年度(2019年度)第6回つくば市総合教育会議			
開催日時		令和2年(2020年)2月8日(土)17時から19時30分まで			
開催場所		つくば市役所2階 会議室203、204			
事務局(担当課)		総務部総務課			
出席者	委員	五十嵐市長、森田教育長、鈴木教育委員、小野村教育委員、柳瀬教育委員、倉田教育委員			
	事務局	毛塚副市長 《総務部》藤後部長 《総務課》中泉課長、中村課長補佐、渡邊課長補佐、澤頭係長、鈴木主任 《教育局》吉沼局長、大久保次長、中山次長 《教育総務課》貝塚課長、笹本課長補佐、宇津野係長、青木係長 《教育指導課》朝賀課長			
公開・非公開の別		公開	非公開	一部公開	聴講者数 130名
非公開の場合はその理由		-			
議題		イエナプラン教育に関する講演会			
会議次第	1	開会			
	2	市長挨拶			
	3	講演 講演者：リヒテルズ直子氏 講演題目：イエナプランのビジョンと実践に学ぶ			
	4	ディスカッション			
	5	閉会			

リヒテルズ直子氏 講演

- ・ イエナプランはビジョン
- ・ イエナプランの実践
- ・ 学校チームの形成と教育行政のサポート
- ・ <自由>の考察

ディスカッション

- ・ 市長、教育長、教育委員からの感想・質問に対する講師の回答

教育委員：ステップを踏んで学校をサポートしていきたい。

教育委員：教員の時間を確保するために、金銭的にも教育行政のサポートがほしい。子供を信じて任せることは苦手かもしれない。

市長：新しいことを学校現場で行うことは大変だという声にどうこたえるか。

リヒテルズ直子氏：お金で軽減できることもあると思うが、基本的には良い仕事にお金が常に必要かというところではなく、メンタリティ、やる気の面が大事である。忙しくてもやりがい、生き甲斐があれば乗り越えられるが、日本の教育現場には自由裁量権がないように思う。教育の専門家としての教師が、教育に特化できる仕組みを作るための予算は必要なのかもしれない。

教育委員：皆でビジョンを共有する際の「皆」は誰を指すのか。共有する、対話することは、誰との対話なのか。

講師：現場の人たちで誰が関わるかを定めることが大事である。オランダでは学校運営に関して保護者や教員が発言できるような法律がある。ビジョンの共有の前に発言権が保証されることが大事である。

教育委員：子供の自発性、自主性を伸ばすにはどうすればよいか。

講師：子供自身ができるようになったことを自覚すると、次に何がしたい、何をすべきかを自分自身で考えられるようになる。

市長：イエナプランでの宿題についての考え方は。

講師：オランダの小学校ではイエナプラン以外でも宿題はゼロ。宿題が必要な勉強の仕方をしていては、大人になってからの仕事もそうになってしまう。

教育長：オランダを視察した際、教師や保護者が同じ方向を向いていると感じた。保護者も同じベクトルを向くためにはどうすればよいか。

講師：「教育の中心は保護者である」というペーターセンの言葉がある。一番大事なのは子供の代弁者である親の考えであり、保護者が求める教育を理解することが大事である。オランダでは教育行政の大事な決定には保護者の声が入る。今後実践していく際も、教育大綱に縛られるのではなく、より良いものに精錬されていくように保護者との対話と振り返りが大事である。

大綱にイエナプランの要素が入っていても、つくばの学校すべてがイエナプラン教育をするのは間違いだと思う。保護者の要望があれば、イエナプラン的な学校も、従来の教育を提供する学校もあるべき。自治体レベルでは、イエナプラン的な学校を作って、広域から通える仕組みを作り、学校を選択できる自由を与えることが重要ではないか。

・聴講者からの質問に対する講師の回答

聴衆：保護者が代弁者になるとのことだが、「いいから勉強しなさい、成績あげなさい」という価値観でも子供の代弁者となりうるのか。

講師：それが大多数であればそうなる。保護者が、教育に対する考え方を聞かれていることを自覚できるよう、聞かれている、対話できるチャンスがあると保護者が感じられるように、行政や学校が聞く機会を設けることが大事である。

聴衆：オランダでの不登校の状況は。

講師：オランダ全体で80数人が不登校というレベル。学校を選べ、各学校に特徴があり、学校がビジョンをはっきり示しているため、選ぶことができず不登校

は少ない。日本のフリースクールも、行政が教育の質を保証した枠組みとすることが重要だと思う。

聴衆：子供が「善」であることが前提だが、子供に善も悪もあるのか。

講師：子供を信じることで子供は善であろうと思いその方向に向かう。

聴衆：講師の学びに対する姿勢を教えてください。

講師：教師や大人が、知らないことがあり学び続ける姿勢を子供に示すことが大事である。欧州でも教師が学ぶ機会を与える重要性がよく言われる。オランダでは正規・非正規を問わず教員一人当たり 10 万/年くらいの研修費が出る。日本は教員の研修制度は遅れている。大学での教員向けのリカレント教育なども大事だと思う。

聴衆：スロースターターな生徒に対するアプローチはどうすればよいか。

講師：どの時間に何をするかは子供が決めるが、一週間後のゴールはあらかじめ決めておき、振り返りながらできなければどうすればできるか一緒に考えることを繰り返す。何か良いところ、得意なところを褒め、自己肯定感を与え伸ばすと転換点となる。

聴衆：親が子供の代弁者とのことだが、親子間のコミュニケーションが希薄だが親の代弁者になりうるか。親と子は別の人間だが、親が良いと思った教育を子に与えるのは親の価値観の押し付けにならないか。

講師：難しいが、親を除いて誰がいるか。日本の場合、学校が全部やってしまうし、責任を負わされてしまう。保護者を信頼することも必要だし、話をする際にデータを示すことも重要だと思う。

聴衆：学ばない教師にはどうすればよいか。

講師：オランダではお金がついて様々な研修機会があり、学ぶのが当たり前になっている。日本ではお金もチャンスもなく、仕事で疲れ切っているからだと思う。

聴衆：イエナプランでは一教室何人くらいの生徒で教師は何人くらいいるか。

様式第 1 号

講師：低学年で 25 人、高学年で 35 人くらい。先生は一人。多くの学校ではワークシェアリングで 2 人の教員が交代している。

聴衆：大綱で異年齢の教育を取り組むとあるが、どう推進するのか。

市長：押し付ける気はなく、教育長が校長先生と協議しながら取り組み方を検討している。

聴衆：外部の機関との協力についての考えと、講師が考える日本の教育が変わっていくべき方向性はあるか。

講師：代表者が集まり話し合い公表されることが肝要である。毎回全員で話すのではなく、専門的な担当集団を決めるほうが効果的。代表制と協議内容の透明性の確保が大事である。また、日本の教育に対しては、幸せな子供を育ててほしい。自立していること、社会の中に場所を見つけられていること、自分が社会の中に受け入れられ意味のある存在でいること、一人一人の価値が認められる社会が大事で、学校から変えていってほしい。社会（大きなところ）ではなく学校（小さなところ）から学びを支援してほしい。

聴衆：これからの教育を受けた子供が社会に出たときに、受け手としての大人がどう意識を変えれば子供はつぶされないか。

講師：学校改革に保護者や地域社会、大人を入れてほしい。関わる大人が少しでも増えることが大切だと思う。

以上

令和元年度(2019年度)第6回つくば市総合教育会議次第

日時：令和2年(2020年)2月8日(土)

17時から19時まで

場所：本庁舎2階 会議室203・204

1 開会

2 市長挨拶

3 講演

講演者：リヒテルズ直子 氏

(Global Citizenship Advice & Research社 代表

一般社団法人日本イェナプラン教育協会 特別顧問)

講演題目：イェナプランのビジョンと実践に学ぶ

～自治体レベルの教育改革にどう活かす？～

4 ディスカッション

5 閉会

事務局：総務部総務課

：教育局教育総務課